平成 30 年度 **地域生活支援学科＿**福祉生活支援コース 学修成果の評価指標 【学生用】

【共通】 汎用的能力要素の学修到達目標に対する学修成果の評価指標

※レベルを飛び越えて評価できません。「 Level 1 」に達していない場合は、「 Level 1未満」とします。

到達目標の詳細は、「キャンパスライフハンドブック」を参照。

※レベル評価では、該当する全ての内容を達成していなければなりません。

【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】（態度・志向性）	ベンチマーク Level 1	マイルストーン Level 2	マイルストーン Level 3	キャップストーン Level 4
1）自他意識を持って意見や立場を理解し、自律的意識をもって協調する態度を身につけることができる。 ①自分の意見を自律的に分かりやすく人に伝えることができる。 ②相手の意見を丁寧に聴き、意見の違いや立場の違いを理解して協調した対応ができる。	小グループの活動のなかで、十分ではないが自分の思いや考えを伝えようと努めている。相手の背景や立場にたった理解や、話すときの表現を工夫するまで至らないが、意見をきちんと傾聴することはできる。	小グループの活動のなかで、自分の考えを伝え、また相手との違いを理解することができる。自らの発言の責任と、相手に配慮して協調した対応は少しはできる。主体的に自分の思いや考えを、表現方法を工夫し、効果的に相手に伝えよう努めている。	集団的活動のなかで、立場の違いや状況を適切に判断して相手の思いや考えを傾聴、理解し、共感することができる。必要に応じて配慮する態度がとれ、自分の発言や行動に責任を伴うことについて十分でないが理解できている。主体的に自分の思いや考えを、表現方法を工夫し、効果的に相手に伝えることができる。	授業内外の組織・集団的活動のなかで、立場の違いや状況を適切に判断して相手の思いや考えを傾聴、理解し、共感することができる。必要に応じて配慮する行動がとれ、また自分の発言や行動に責任を伴うことを理解したうえで、主体的に自分の思いや考えを、表現方法を工夫し、効果的に相手に伝えることができる。
2）社会規範に沿った倫理観をもち、社会の一員としての責任をもつことができる。 ①自己の良心と社会規範に沿った倫理観の下での対応ができる。 ②社会のルールや人との約束を守って社会の一員として責任を持って立ち居振る舞い対応ができる。	関連法令を理解し遵守している。人との約束などについてある程度は守れている。自らの取組みや活動について、他者・社会・自然に対して責任や責務を負っていることを認識しはじめたところである。	関連法令を理解し遵守している。交わした約束などについて守るよう努めている。自らの取組みや活動について、他者・社会・自然に対して責任や責務を負っていることをある程度認識、理解でき、一部は実際に責任を持った行動がとれる。	関連法令を理解し遵守している。交わした約束などについてきちんと守っている。自らの取組みや活動について、他者・社会・自然に対して責任や責務を負っていることを認識、理解でき、実際に責任を持った行動がとれる。	関連法令を理解し遵守している。交わした約束などについて、十分なコミュニケーションを図ったうえで、きちんと守っている。自らの取組みや活動について、他者・社会・自然に対して責任や責務を負っていることを認識、理解でき、実際に責任を持った行動がとれる。変化する社会環境に対して世界的視点を備え、自己の良心に基づいて社会規範に沿った責任行動がとれる。
3）将来目標に向けた自立的志向、ライフスタイルに応じた生涯学習志向を持つことができる。 ①社会規範に沿った基本的な生活習慣や、自己の健康・体力を管理することができる。 ②ストレスの発生源に対して自律的かつ柔軟に対応し、危機管理を行うことができる。 ③自主的に将来の目標に向かって自立学習をすることができる。	日常生活の基本的な管理はできており、社会規範に沿った自己のライフスタイルについて考え始めている。自分のストレスを察知し、十分でないが、これ以上蓄積しないよう行動することができる。授業で要求されることの先を考え、知識を自立的に追及することに興味を持つことができる。学習内容や日常の出来事について、過去の学修・経験を浅いレベルで再検討できる。	日常生活の習慣、健康維持をある程度管理できており、社会規範に沿って自己のライフスタイルがイメージできる。普段に自分のストレス発生源を意識し、様々な状況下で変化するストレスに少しは対処でき、自分に合った方法で解消している。授業で要求されること以上に、関係する知識を追求し、自立的に学習経験を追及することに興味がもてる。学習内容や日常の出来事について、以前よりいくらか広い見方ができ、過去の学修・経験をある程度の深さで再検討できる。	日常生活の習慣、健康維持を積極的に管理できており、社会規範に沿って自己のライフスタイルがイメージできている。普段に自分のストレス発生源を意識しており、自分に合った方法で解消しており、変化する環境のなかで生じるストレスへのある程度の対処できている。授業で追求されること以上に、しっかりとした付加的な知識を追求し、自立的な教育経験を能動的に追及する。教育的・日常的出来事について以前より広い見方を示し、過去の学修・経験を深いレベルで再検討している。	日常生活の習慣、健康を維持・向上させるために積極的に、かつ計画的継続的に管理しており、社会規範に沿って自己のライフスタイルをイメージできている。普段のストレスや変化する環境の中で生じるストレスの発生源を意識的に把握しており、自分に合った方法で解消または上手に付き合うことで自己管理している。教育的な興味と追及は、授業で要求されること以外にもあり、自分なりに学習している。過去の学修・経験を深く振り返って、教育的・日常的出来事についての見方を広げ、将来の目標や計画に向けて、長期間にわたって知識や経験を自立的に追及している。

【教養ある社会人としての基礎力】（知識・理解）	ベンチマーク Level 1	マイルストーン Level 2	マイルストーン Level 3	キャップストーン Level 4
1）人文科学、他文化や異文化に関する知識を身につけ、人間性への理解認識を深めることができる。 ①人文科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。 ②多文化や異文化に対する認識と理解を持って知識を身につけることができる。	修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度※が、概ね 60%以上ある。1 科目以上の共通科目を履修し、人文科学や多様な文化に関する内容を学修した。その学修のなかで、与えられた課題はきちんとこなすことができる。まだ専門分野や社会と関係付けた考えができていないが、知識として内容はきちんと身に付けた。実際の認識は浅いと思うが、物事に多面的な関係性があることは分かる。他者の文化的背　景を踏まえた言動はほとんどできていないと感じる。 ※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度が、概ね 70%以上ある。複数の共通科目を履修し、人文科学や多様な文化に関する内容を学修した。その学修のなかで、与えられた課題はきちんとこなすことができる。身に付けた学修内容は、専門分野や社会との関係性がある程度は分かるので、授業以外で学修内容を日常で少しは使用することができる。物事の多面性と多様な関係性、また学んでいない他の分野や事柄との結びつきに少しは気付くことができるので、少しは考えて他者への言動の配慮ができる。	修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度が、概ね 80%以上ある。複数の共通科目を履修し、人文科学や多様な文化に関する内容を学修した。その学修のなかで、履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。身に付けた学修内容は、その授業以外に、専門とする分野や社会生活との関連性を把握できている。関連する事柄に対する言動は、場面に応じて学修した内容を使用することができる。物事の多面性と関係性、また学んでいない他の分野や事柄との結びつきが理解できるので、他者への言動の配慮ができる。	修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度が、概ね 90%以上ある。複数の共通科目を履修し、人文科学や多様な文化に関する内容を学修した。その学修のなかで、履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。身に付けた学修成果は、その授業以外に、専門とする分野や社会生活との関連性を理解している。関連する事柄に対する発言や行動は、場面に応じて学修した内容を使用することができる。物事の多面的な関係性があること、また学んでいない他の分野や事柄との結びつきに気づき、他者への言動の配慮や働き掛けができる。人間性の更なる理解を深めるために自ら学びを深めており、日常に活かしている。
2）社会科学・自然科学に関する知識を身につけ、物事への理解認識を深めることができる。 ①社会科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。 ②自然科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。	修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度※を概ね 60%以上で獲得している。少なくとも1科目以上から社会科学・自然科学に関する学修をしている。履修科目の授業や与えられた課題を評価される程度にこなしている。まだ専門分野や社会と関係付けた考えができていないが、知識として内容はきちんと身に付けた。 自然や社会的事象について、情報が意味するものとは間違った解釈・結論を導くこともあるが、数学的形式の情報説明を試みている。結論にまで結びついてはいないが、データの量的分析を初歩的な判断根拠として使用している。単純な情報の変換は完遂できる。 ※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。少なくとも1科目以上から社会科学・自然科学に関する学修をしている。履修科目の授業や与えられた課題を評価される程度にこなしている。履修科目の授業や与えられた課題を評価される程度にこなしている。身に付けた学修内容は、専門分野や社会生活との関連性があることが少しは分かる。学んでいない他の分野に関する関心が少しはある。関連する物事に対する発言には、時折学修した内容を用いている。また物事の理解を深めるための教養の必要性を感じている。 自然や社会的事象について、計算や単位などの小さいミスはあるが、数学的形式の情報をある程度正確に説明できる。データの量的分析を、直感やひらめきを伴わない判断根拠として使用し、結論を導き出すことができる。情報の変換を完遂でき、その結果である科学・数学的表現はある適度は正確に使用できる。	修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。複数科目から社会科学・自然科学に関する知識の修得をしている。履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなしている。身に付けた学修内容は、その授業以外で、専門とする分野や社会生活との関連性を理解している。物事に多面的な関係性があることを認識し、学んでいない他の領域への関心が少なからずあり、自ら部分的に理解を深めている。関連する物事に対する発言には、学修した内容を活かしている。また物事の理解を深めるための教養の必要性を認識しており、偏った見方ではあるが理解認識を深めている。 自然や社会的事象について、科学・数学的形式の情報を正確に説明できる。データの量的分析を、確かな判断根拠として使用でき、結論は筋が通り適切である。適切な情報を適切な科学・数学的表現に変換できる。	修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。社会科学・自然科学について、幅広く学んでいる。履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなしている。身に付けた学修内容は、その授業以外で、専門とする分野や社会生活との関連性を認識し、日常の生活に転用・応用している。物事に多面的な関係性があることを認識しており、学んでいない他の領域への関心を持って、自ら幅広い視野をもって理解を深めている。関連する物事に対する発言内容には、学修した内容を活かしている。また物事の理解を深めるための教養の必要性を認識し、探求心をもって理解認識を深めている。 自然や社会的事象について、科学・数学的形式の情報を正確に説明でき、これを土台とした適切な推論を立てることができる。データの量的分析を、思慮深く判断し使用することができ、結論は入念で洞察に富むものである。適切な情報をさらに深い理解に寄与するような方法で、洞察に富んだ科学・数学的表現に巧みに変換できる。
3）将来社会生活・職業生活に向けた基礎知識を身につけ、生活での多様な役割や意義関連への理解を深めることができる。 ①生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていくことができる。 ②職業生活・社会生活に必要な基本的な常識を身につけることができる。	履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。将来の社会生活・職業生活にとって、一般教養・常識が必要であることはあまり意識していない。学習内容ほか新聞記事やニュースなどの日常的な話題や基礎知識と、実際の自分との関連性を時々考えることがある。	履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。将来の社会生活・職業生活にとって、一般教養・常識が必要であることを理解している。個々の知識の関連性や自己との関係性について意識している。授業内容、新聞記事や日々のニュースなどの日常的話題から、一般常識・教養に自分との関連性のある基礎・汎用的な知識に関心を持っており、将来関係する基礎知識の必要性を認識している。	履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。将来の社会生活・職業生活にとって、一般教養・常識などの汎用的知識が必要であることを理解している。個々の知識の関連性や自己との関係性を理解するには至っていない。授業内容、新聞記事や日々のニュースなどの日常的話題から、一般常識・教養に自分との関連性のある基礎・汎用的な知識に関心を持っており、将来関係する基礎知識の必要性に気づき、部分的に知識の獲得に努めている。	履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなし、自己との関係性のなかで明確な役割や意義を見出して理解を深めている。将来の社会生活・職業生活にとって、一般教養・常識などの汎用的知識が必要であることを理解しており、授業外での活動で教養を深めている。授業内容、新聞記事や日々のニュースなどの日常的話題において、一般常識・教養の自分との関連性を認識し、日ごろから知識を獲得している。

【社会人としての汎用的能力】（技能・表現）	ベンチマーク Level 1	マイルストーン Level 2	マイルストーン Level 3	キャップストーン Level 4
1）日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。	修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度※を概ね 60%以上で獲得している。授業の課題をこなすことができる。語学力の4要素（読み・書き・聞き・話す）のうち少なくとも1つは日常活用において不自由しないレベルにある。学修は授業のなかで完結している。日常に活用するまでないが、授業外の活動で部分的に活用している。 テキストの情報を適切に捉え、言い換えや要約することができる。文章作成の課題に対し、最低限の注意ははらうことができる。用語法を誤ったりするが、基本的構成や提示において一貫した体系を使うように気をつけている。話において、中心的なメッセージは推測してもらえる。プレゼンテーションは構造的なパターンを部分的にはつくれる。自分の話し方は、まだ相手の理解の妨げとなっていると考えられる。 ※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了した学期において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。授業の課題をこなすことができる。語学力の4要素（読み・書き・聞き・話す）のうち 2 つは日常活用において不自由しないレベルにある。学修は授業のなかで完結しているが、授業外の活動である程度活用できている。日常で活用することについては意識している。 テキストの情報を評価し、その背景や目的について、基礎的な推論ができる。与えられた課題を理解して、特定の学問や文章作成課題に求められるルールに従って作成することができるが、文章には数か所誤りがある。話において、中心的なメッセージは基本的に伝えることができ、プレゼンテーションは構造的なパターンを時々つくることができる。自分の話し方には自信がもてないでいる。	修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。授業の課題をこなすことができる。語学力の4要素（読み・書き・聞き・話す）のうち 3 つは日常活用において不自由しないレベルにある。継続的ではないが、学修は授業内だけでなく、関心をもって学修・活用に努めている。 テキストの情報に対して、より複雑な推論を行うために、一般的及び特定の知識を使用している。与えられた課題に明確に焦点をあてており、特定の学問や文章作成課題に求められる重要なルールを、一貫性をもって使用できる。文章の誤りは滅多にない。話において中心的メッセージを明確に伝えることができ、プレゼンテーションは一貫した構造的なパターンでつくることができる。自分の話し方によって、相手に興味深さを与えることができる。	修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。授業の課題をこなすことができ、また自らの学びを示すことができる。語学力の4つの能力要素（読み・書き・聞き・話す）が全て日常活用において十分なレベルにある。学修は、日常においても自ら学修をすすめており、学修内容は授業外においても十分活用できている。 テキストの情報を超える問題に対して、テキストが含意するものを認識している。与えられた課題に対応し、あらゆる要素に焦点をあてており、特定の学問や文章作成課題に求められる広範なルールに細かな注意を向け遂行できる。文章の誤りは殆どない。話において説得力をもって中心的メッセージを伝えることができる。話し方は、プレゼンテーションを説得的に使用することができ、洗練されており、自信をもって伝えることができる。
2）自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析、理解し、表現することができる。	修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度※を概ね 60%以上で獲得している。計算などの分析を試みている。論拠を並べることはできるが、整理し、問題の焦点と関連付けはしていない。結論はあいまいで、筋が通らないことがある。単純に情報の変換は完遂できる。 ※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。行った分析から。問題の完全な解決をするために要求された分析の一部分は示すことができる。論拠は整理することができるが、その整理は、重要なパターン、違い、類似性を明らかにするには十分とは言えない。課題の事象に対し、一般的結論は導ける。情報の変換は完遂できる。結果である科学・数学的表現（式、グラフ、図、表、言葉）は部分的には適切あるいは正確に表現できる。	修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。行われた分析は基本的には全て成功しており、十分に問題解決できる。論拠を整理して、問題の焦点と関連する重要なパターン、違い、類似性を明らかにすることができる。結論は、単に得られた結果から上がってきたものであり、結果に明確に対応させることができる。適切な情報を、適切での望ましい科学・数学的表現に完全に変換できる。	修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。行われた分析は基本的には全て成功しており、十分に問題解決できる。また、分析プロセスは明快である。論拠を整理して総合的に扱い、問題の焦点に関連する洞察力に富んだパターン、違い、類似性を明らかにすることができる。結論は、得られた結果から、論理的に既知の事柄のことから推定することができる。適切な情報を、さらに進んだ、あるいはさらに深い理解に寄与するような方法で、洞察に富んだ科学・数学的表現に巧みに変換できる。
3）将来社会生活・職業生活に必要な基礎的技能を身につけ、問題を発見し解決することができる。 ①情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 ②情報や知識を複眼的、論理的に分析して物事を考え、その結果を文書や発言として表現できる。 ③問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。 ④職業生活・社会生活に必要な基本的な所作やマナー、文章作成、必要に応じた技能検定資格等を身につけることができる。	情報の取扱いの法令を遵守し、与えられた課題の解決ができる。ICT（情報通信技術）の基本的ツールを、十分ではないが利用することができる。情報は、自分の偏った見方から収集しており、また系統立ててまとめるまでには至らないと言える。あるいは、課題の意図に沿わない情報を含めている。課題に対する結果の内容は、論理性がなく、あいまいである。授業のなかで生活に必要な基本的な所作・マナー、文章作成を身に付けたが、授業外でわずかに転用・応用できている。	情報の取扱いの法令を遵守し、与えられた課題の解決ができる。ICT の基本的ツールを十分に利用することができるが、効果的に活用できているとは言えない。収集された情報は、ある一定の範囲から収集されており、系統立てられるものである。結果の内容は、課題の意図に沿ってある程度のまとまりをもって整理ができている。文章には部分的に論理性を欠く内容が含まれる。行動にまで至らないが、課題解決のなかから、自己の興味の範囲で問題を見出すことができる。授業のなかで生活に必要な基本的な所作・マナー、文章作成を身に付け、部分的だが授業外で転用・応用できている。	情報の取扱いの法令を遵守し、与えられた課題の解決ができる。ICT の基本的ツールを十分に利用することができ、効果的に活用できる。収集された情報は、文脈に関連する範囲をある一定の深さで収集し、系統立てることができる。結果の内容は、課題の意図に沿ってある程度の深さをもって論じることができ、文章は論理性があり、明確にできる。課題解決のなかから、関連する情報との関係性から問題を発見し、解決を試みることができる。授業のなかで生活に必要な基本的な所作・マナー、文章作成を身に付け、授業外でも応用できている。授業外に諸々の技能検定資格等について、今後の必要性を感じており、諸々の資格取得を考えている。	情報の取扱いの法令を遵守し、与えられた課題の解決ができる。ICT の基本的ツールを十分に利用することができ、効果的かつ発展的に活用できる。収集された情報は、文脈に関連する範囲を十分な深さで収集し、系統立てることができる。結果の内容は、課題の意図に沿って十分な深さをもって論じており、文章は論理性があり、明確にできる。課題解決のなかから、関連する情報との関係性から諸問題を発見し、解決策を見出すことができる。授業のなかで生活に必要な基本的な所作・マナー、文章作成を身に付け、授業外にも応用するほか、発展的に学んでいる。授業外の諸々の技能検定資格等において、今後の必要性を感じ、実際に資格取得に向けた学修を自ら行っているか、あるいは取得している。

【地域生活を支援し、創造する力】（行動・経験・創造的思考力）	ベンチマーク Level 1	マイルストーン Level 2	マイルストーン Level 3	キャップストーン Level 4
1）物事に進んで取り組み、他人との協調のなかで行動することができる。 ①物事に進んで取り組み行動することができる。 ②他人に働きかけを行い、巻き込みながら行動することができる。	与えられた課題や活動に参加することができる。チームの考えや意見などを共有するが、受動的に受入れている。他のメンバーから促されることで発言でき、意見を傾聴することでグループ活動に参加できる。	与えられた課題や活動に参加することができる。自らのその成果はプロジェクトを前進させるものである。対立する考えや意見から離れ、共通する基盤や当座の課題に目を向け直すことができる。他のメンバーの見方を言い直すか、明確にする質問をすることなどで、話し合いを促進することができる。	与えられた課題や活動に参加することができる。自らのその成果は徹底し、包括的であり、プロジェクトを前進させるものである。対立する考えや意見を認識し、把握したうえで取組みを続けることができる。他のメンバーの貢献を建設的に積み重ね、統合するなどして、話し合いを促進することで、他のメンバーをチームの活動に参加させことができる。	与えられた課題や活動に参加することができる。自らのその成果は徹底し、包括的であり、プロジェクトを前進させるものである。他のメンバーが与えられた課題を自分と同じレベルで完遂できるように率先して助けることができる。破壊的な対立する考えや意見において、直接言及し、チーム全体の結束を効果的に高めるやり方で、対立に取組み解決することを建設的に助けることができる。参加していないメンバーに気づき、参加を促すとともに、他のメンバーの貢献を建設的に積み重ね、統合するなどして、話し合いを促進することで、チームの活動に参加させることができる。
2）目的を設定し、将来設計に沿って確実に行動することができる。	与えられた課題や活動に対して目的を理解し、取組むことができる。	与えられた課題や活動に対して目的を理解し、取組むことができる。明確な自らの目的はまだ見出せるまでないが、課題や活動のなかに自己の将来ビジョンとのつながりを少しは考えられる。	与えられた課題や活動に対して目的を理解し、取組むことができる。行動の証を示せるまでないが、課題や活動のなかに自己の将来ビジョンとのつながりを見出しており、明確な自らの目的を設定できている。	与えられた課題や活動の目的を理解し、取組むことができる。課題や活動のなかに自己の将来設計とのつながりを見出し、明確な自らの目的を設定できており、それに対する行動の証を示すことができる。
3）獲得した知識、技術・技能、態度等を総合的に活用し、経験から新しい価値や課題を見出し解決することができる。 ①経験を基にさらに新しい価値を生み出すことができる。 ②これまでに獲得した知識、技術・技能、態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。	与えられた課題や活動をその授業の学修内容だけで解決している。経験や知識は、その授業以外のこととは連続しない個々のものとして捉えている。	与えられた課題や活動をその授業以外の経験を含めて適用し解決できる。その課題からは、自らの考えや価値、新たな課題を見出すことができる。個々の経験や知識について、連続する総合的な見方をするまでには至らない。	与えられた課題や活動をその授業以外の経験を含めて適用し解決できる。その課題から自らの考えや価値、新たな課題を見出している。個々の経験や知識について、連続する総合的な見方ができるが、自ら立てた課題を解決できるまでには至っていない。	与えられた課題や活動をその授業以外の経験を含めて適用し解決できる。その課題から自らの考えや価値、新たな課題を見出している。個々の経験や知識が連続する総合的な見方ができている。自ら立てた課題の解決がされており、新しい価値を見出している。

専門的能力要素の学修到達目標に対する学修成果の評価指標
到達目標の詳細は、「キャンパス・ライフ・ハンドブック」を参照。

※到達レベルを飛び越えて評価できません。「 Level 1 」に達していない場合は、「 Level 1未満」とします。
※レベル評価では、該当する全ての内容を達成していなければなりません。

【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】 （態度・志向性）	ベンチマーク Level 1	マイルストーン Level 2	マイルストーン Level 3	キャップストーン Level 4
1）食と福祉と多文化にまたがる複合的分野に対して、自ら積極的に興味を持って学修でき、「知識と技術の横のつながり」を人々への生活支援のために自律的に発揮できる能力を有している。	・地域で生活している人々への支援活動を行うことが、将来の自分の仕事であるとの自覚と意識を持っている。 ・人々の生活支援に対して、「食生活に関する分野」と「福祉生活に関する分野」と「多文化下の生活の多様性に関する分野」での知識と技術の横のつながりの必要性を認識し、その修得に興味を持つことができる。 ・人々の生活支援に対して、「いのち(生きること)の大切さ」と「くらし(安全で安心な日々の営み)の大切さ」と「人生(人が生れてから死ぬまでの各ライフステージ)のあり方」に興味を持って考えることができる。	・地域で生活している人々への支援活動の方法について、現在自分が学修している知識と技術を、ある程度具体的に対応させて考えることができる。 ・人々への生活支援活動に対して、自分が専門とする「食生活」または「福祉生活」あるいは「多文化生活」の各専門知識と技術を主体的に活用すると共に、他領域の人とのコミュニケーションや知識を複合化して、多様な対応ができる柔軟性を有している。 ・人々の安全で安心な暮らしへの支援活動を、対象者の各ライフステージや生活嗜好およびライフスタイルに合わせて、学修した知識と技術を効果的に結び付けることを企画することができる。	・地域生活者への支援活動と地域の活性化活動に対して、自分が修得している知識と技術をどのように活かして貢献できるかを明確に示すことができる。 ・人々への生活支援活動に対して、自分が専門に学んだ「食生活」または「福祉生活」あるいは「多文化生活」の知識と技術を、他領域の知識と複合化してサポートすることに主体的に率先して具体的に対応ができる。 ・人々の安全で安心な暮らしへの支援活動を、対象者の各ライフステージや生活嗜好およびライフスタイルに合わせて、学修した知識と技術を的確に適用して実践的な立案と計画を立てることができる。	・地域生活者への支援活動と地域の活性化への貢献に対して、自分が修得した専門の知識と技術をどのように活かせるかを明確に考え、自分の将来の職業としてのグランドデザインが描け、具体的な職種として明確に提示することができる。 ・地域の人々への生活支援活動に対して、自分が専門に学んだ「食生活」または「福祉生活」あるいは「多文化生活」の知識と技術を、他領域の知識や異なった分野の人と協調して複合的に活用して実践対応ができる。 ・地域の人々の安全で安心な暮らしへの支援活動を、対象者の各ライフステージや多様な生活嗜好とライフスタイルなどに対応して、学修した知識と技術を的確かつ柔軟に適用して実践的に行動できる。
2）他者に共感でき、人権擁護の視点、職業倫理を身につける。 ①相手の立場を理解し共感・受容できる。 ・豊かな感性、社会人としてのマナーを身につける。 ②人間に対する尊厳を保持し、自立(律) した生活を支える必要性を理解できる。 ③介護福祉士としての職業倫理と権利擁護のしくみが理解できる。 ・介護福祉士の義務規定を理解できる。 ・介護福祉士の倫理綱領を理解できる	・豊かな感性や、人間に対する深い洞察力をもつことは、まだ十分とはいえないが、相手の立場を理解し、社会人としてのマナー等、少しは身についている。 ・人間に対する尊厳を保持し、自立(律)した生活を支える必要性について少しは理解できる。 ・権利擁護、倫理綱領についての理解は十分とはいえないが、介護福祉士の義務規定は理解できる。	・豊かな感性や、人間に対する深い洞察力をもつこと、相手の立場を理解し、社会人としてのマナー等は、ある程度は身についている。 ・人間に対する尊厳を保持し、自立(律)した生活を支える必要性についてある程度は理解できる。 ・権利擁護、倫理綱領については、ある程度は理解でき、介護福祉士の義務規定は理解できる。	・豊かな感性や、人間に対する深い洞察力をもつこと、相手の立場を理解し、社会人としてのマナー等は、だいたいは身についている。 ・人間に対する尊厳を保持し、自立(律)した生活を支える必要性についてだいたい理解できる。 ・権利擁護、倫理綱領については、だいたい理解でき、介護福祉士の義務規定は理解できる。	・豊かな感性や、人間に対する深い洞察力をもつこと、相手の立場を理解し、社会人としてのマナー等は、十分身についている。 ・人間に対する尊厳を保持し、自立(律)した生活を支える必要性について十分理解できる。 ・権利擁護、倫理綱領については十分理解でき、介護福祉士の義務規定は理解できる。
3）利用者本位のサービスを提供し、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる。 ①介護を必要とする人やその家族の心理を理解できる。 ・人間に対する深い洞察力をもつことができる。 ②保健・医療・福祉等の専門職の業務内容と機能、役割について理解できる。 ・組織における報告・連絡・相談の必要性を理解できる。 ③施設・在宅におけるチームアプローチの方法、報告・連絡・相談ができる。	・保健・医療・福祉等の専門職の業務内容と機能、役割について少しは理解できる。 ・組織における報告・連絡・相談の必要性についてある程度は理解できる。 ・施設、在宅におけるチームアプローチの方法についての理解は十分とはいえないが、関連する他職種連携の意義と目的について少しは理解し説明ができる。	・保健・医療・福祉等の専門職の業務内容と機能、役割について概ね理解できる。 ・組織における報告・連絡・相談の必要性はだいたい理解できる。 ・施設・在宅におけるチームアプローチの方法、関連する他職種連携の意義と目的についてはまあまあ理解できる。	・保健・医療・福祉等の専門職の業務内容と機能、役割について概ね理解できる。 ・組織における報告・連絡・相談の必要性を概ね理解できる。 ・施設・在宅におけるチームアプローチの方法、関連する他職種連携の意義と目的について概ね理解できる。	・多職種の機能、役割について十分理解し、協働によるチームアプローチの必要性が理解できる。 ・組織における報告・連絡・相談の必要性について十分理解できる。 ・施設・在宅におけるチームアプローチの方法、関連する他職種連携の意義と目的について十分理解できる。

【教養ある専門職業人としての基礎力】 （知識・理解）	ベンチマーク Level 1	マイルストーン Level 2	マイルストーン Level 3	キャップストーン Level 4
1）地域の特性に密着した日常レベルでの衣・食・住を根幹とした生活科学分野と人文・社会・自然の各科学分野とを連携した複合的知識と技術を有している。	・地域の衣、食、住などのローカルな文化にも興味を持って学修でき、地域の人々への生活支援活動に役立てていくことを考えることができる。 ・一般教養としての人文、社会、自然科学分野(リベラルアーツ)に興味を持って学修でき、それを地域の人々への生活支援活動に役立てていくことを考えることができる。 ・地域文化と異文化を融合して、シームレスな国際化社会で活躍していくことの重要性を理解できる。	・地域の衣、食、住などのローカルな諸文化について学修した内容を理解できており、地域の人々への生活支援活動にどのように役立てていけるかを具体的に示すことができる。 ・一般教養としての人文、社会、自然科学分野(リベラルアーツ)について学修した内容を理解できており、地域の人々への生活支援活動にどのように役立てていけるかを具体的に示すことができる。 ・地域の衣、食、住などのローカルな諸文化と人文、社会、自然科学分野の知識を連携して、地域の人々への生活支援活動に複合的に活用する方法を具体的に考えて示すことができる。	・地域の衣、食、住などのローカルな諸文化について学修した内容を、地域の人々への生活支援活動の方法として、ある程度実践的に活用することができる。 ・一般教養としての人文、社会、自然科学分野(リベラルアーツ)について学修した内容を、地域の人々への生活支援活動の方法として、ある程度実践的に活用することができる。 ・地域の衣、食、住などのローカルな諸文化と人文、社会、自然科学分野の知識を連携して、地域の人々への生活支援活動に活用する方法として、ある程度複合的に活用して実践することができる。	・地域のローカルな生活特性と人々の多様な考え方とライフスタイルを尊重しながら、身に付けた豊富な教養知識を自然態で活用して、生活支援の専門職業人として社会で活躍できる自信がある。 ・修得した教養を実践的に活用し、ホスピタリティ精神(おもてなしの心)溢れる柔軟な対応で、「食」や「福祉」や「多文化」の各分野での専門職業人として、社会貢献と地域の人々への生活支援活動ができる具体的な職業へのグランドイメージ(人生設計)を示すことができる。 ・地域の衣、食、住などのローカルな諸文化知識と人文、社会、自然科学分野の基礎教養知識を複合的に連携しながら、地域の人々の生活の質(QOL:Quality of Life)の向上を目指して、生活支援の専門家(プロフェッショナル)としての具体的職業に就く強固な意志を持っている。
2）あらゆる介護場面に共通する基礎的な知識・技術を修得する。 ①生活の概念や自立に向けた生活支援の知識や技術を習得し、説明できる。 ・自立に向けた日常生活における生活支援技術や介護予防、生活援助(家事援助)の知識や方法を理解できる。 ②介護に必要な医学的な知識や心理について理解できる。 ③介護に関する社会保障(介護保険制度・障害者総合支援法等)の施策について理解できる。 ・介護に関連するその他の制度・施策が理解できる。 ④ケアマネジメントのシステムについて理解できる。	・生活の概念や生活支援の考え方、自立に向けた日常生活における生活支援技術(介護予防、生活援助)の知識や方法について少しは理解できる。 ・介護に必要な医学的な知識や心理について少しは理解できる。 ・介護保険制度、ケアマネジメントのシステム、関連するその他の制度・施策についての理解は十分とはいえないが、介護に関する社会保障の制度、障害者総合支援法等についてはある程度理解できる。	・生活の概念や生活支援の考え方、自立に向けた日常生活における生活支援技術(介護予防、生活援助)の知識や方法についてある程度は理解し実践できる。 ・介護に必要な医学的な知識や心理についてある程度は理解できる。 ・介護保険制度、ケアマネジメントのシステム、関連するその他の制度・施策、介護に関する社会保障の制度、障害者総合支援法等についてはだいたい理解できる。	・生活の概念や生活支援の考え方、自立に向けた日常生活における生活支援技術(介護予防、生活援助)の知識や方法についてだいたいは理解し実践できる。 ・介護に必要な医学的な知識や心理について概ね理解し実践できる。 ・介護保険制度、ケアマネジメントのシステム、関連するその他の制度・施策、介護に関する社会保障の制度、障害者総合支援法等については概ね理解できる。	・生活の概念や生活支援の考え方、自立に向けた日常生活における生活支援技術(介護予防、生活援助)の知識や方法について理解し実践できる。 ・介護に必要な医学的な知識や心理について理解し実践できる。 ・介護保険制度、ケアマネジメントのシステム、関連するその他の制度・施策、介護に関する社会保障の制度、障害者総合支援法等については理解できる。
3）介護過程の意義と目的を理解し、利用者に適したアセスメントができる。 ①アセスメントに際し、ICF を理解し、将来の予測を考察することができる。 ・介護過程の意義と目的が理解できる。 ・アセスメントの必要性が理解できる。 ・利用者の潜在能力を引き出し、利用者に適したアセスメントができる。 ・利用者の生活における将来の予測について説明できる。 ②アセスメントに基づいた介護計画が立案できる。 ・介護実践に際し、その根拠が説明できる。 ③自立に向けた自助具・福祉用具を活用するための知識や方法を理解できる。 ・利用者の自己実現に向けた生活支援の知識や方法を理解できる。	・介護過程の意義と目的についてある程度は理解できる。 ・アセスメントに基づいた介護計画の立案はできないが、アセスメントの必要性、ICF の理解、利用者に適したアセスメントについてある程度はできる。 ・介護実践に際し、その根拠についてある程度は説明することができる。 ・自立に向けた自助具・福祉用具を活用するための方法は十分とはいえないが、知識については理解できる。 ・利用者の自己実現に向けた生活支援の知識や方法について少しは理解できる。	・介護過程の意義と目的についてだいたいは理解できる。 ・アセスメントに基づいた介護計画の立案は少しは理解でき、アセスメントの必要性、ICF の理解、利用者に適したアセスメントについてはだいたいはできる。 ・介護実践に際し、その根拠についてだいたい説明することができる。 ・自立に向けた自助具・福祉用具を活用するための知識を理解し、活用方法はだいたいできる。 ・利用者の自己実現に向けた生活支援の知識や方法についてだいたい理解できる。	・介護過程の意義と目的について概ね理解できる。 ・アセスメントに基づいた介護計画の立案は概ね理解でき、アセスメントの必要性、ICF の理解、利用者に適したアセスメントについては理解できる。 ・介護実践に際し、その根拠について概ね説明することができる。 ・自立に向けた自助具・福祉用具を活用するための知識を理解し、活用方法は概ねできる。 ・利用者の自己実現に向けた生活支援の知識や方法について概ね理解できる。	・介護過程の意義と目的について理解できる。 ・アセスメントに基づいた介護計画の立案、アセスメントの必要性、ICF の理解、利用者に適したアセスメントについては理解できる。 ・介護実践に際し、その根拠について説明することができる。 ・自立に向けた自助具・福祉用具を活用するための知識を理解し、活用することができる。 ・利用者の自己実現に向けた生活支援の知識や方法について十分理解できる。

【専門職業人としての汎用的能力】 （技能・表現）	ベンチマーク Level 1	マイルストーン Level 2	マイルストーン Level 3	キャップストーン Level 4
1）どのような状況の変化と人々にも対処できる食と福祉と多文化にわたる汎用性のある知識と幅広く活用できる技能および柔軟な人間性を持った有機的な生活支援ができるコンシェルジュにふさわしい能力を有している。	・「食」と「福祉」および「多文化」の学びの中で、自分が将来地域の人々への生活支援活動を行う場合の主となる知識あるいは技術の他にも、連携活用できる他領域の学修への興味を持っている。 ・地域の人々への生活支援活動は、単領域の専門家(プロフェショナル)と関連する多くの異なる分野の各専門家との協力が必要であることを理解している。 ・関連する異なる学問領域の専門家とも協調しながら、自分のプロとしての知識と技術を活用して、地域の人々への生活支援がしたいとの強い意志を持っている。	・「食」と「福祉」および「多文化」の学びの中で、自分が将来地域の人々への生活支援活動を行う場合の主となる知識と技術の他にも、連携活用できる他領域の学修も行っている。 ・地域の特性と人々の多様な考え方やライフスタイルなどに柔軟に対応して、自己の専門性を活かすと共に異なる関連領域の知識と技術を援用しながら、人々への生活支援活動ができるための学びの準備が進んでいる。 ・関連する異なる学問領域で専門家として活動するために学んでいる人達とも協調しながら、地域の人々への生活支援のプロとしての知識と技術の修得が順調にできている。	・「食」と「福祉」および「多文化」の学びの中で、自分が将来地域の人々への生活支援活動を行う場合の主となる知識と技術の他にも、連携活用できる他領域の基本的知識および技能などを含めて広範な支援能力が身に付いてきている。 ・地域の特性とその地で生活している人々の多様な考え方やライフスタイルなどに柔軟に対応して、自己の専門性を活かすと共に異なる関連領域の知識と技術を援用しながら、人々への広範な生活支援活動ができるための能力が身に付いてきている。 ・関連する異なる学問領域で専門家として活動するために学んでいる人達とも協調しながら、地域の人々への生活支援の汎用的専門家(コンシェルジュ)としての知識と技術の修得も順調にできている。	・「食」と「福祉」および「多文化」の学びの中で、自分が将来地域の人々への生活支援活動を行う場合の根幹とする知識と技術の他にも、連携活用できる他領域の基本的知識および技能などの修得ができており、専門職業人として、および汎専門的立場での広範な生活支援能力が身に付いている。 ・地域の特性とその地で生活している人々の多様な考え方やライフスタイルなどに柔軟に対応して、自己の専門性を活かすと共に関連する異なる領域の知識と技術を援用しながら、人々への広範な生活支援活動ができるコンシェルジュとしての自覚も持っている。 ・関連する異なる学問領域で専門家として活動するために学んでいる人達共、自己の専門性を活かしながら協調連携して、地域の人々に対して多様な生活支援が汎用的専門家(コンシェルジュ)としても可能な広範な知識と技術の修得と蓄積ができている。
2）利用者の情報を収集・分析し、介護計画作成、実践、評価について理解できる。 ①利用者と信頼関係を結ぶためのコミュニケーションをとることができる。 ・言語・準言語・非言語のコミュニケーションの概要を理解できる。 ・形態別にコミュニケーションがとれるための知識・技術を習得し実践できる。 ・チームケアに必要なコミュニケーションの技法を習得し実践できる。 ②介護過程の一連の流れを理解し、在宅と施設の介護過程の相違を説明できる。 ③記録の必要性を理解し、的確な記録・記述ができる。 ・5W1H を念頭に入れて記録することができる。 ・パソコンを介護業務に活用することができる。	・利用者と信頼関係を結ぶためのコミュニケーションを図るため、形態別やチームケアに必要なコミュニケーションをとることは十分できるとはいえないが、言語・準言語・非言語のコミュニケーションの概要についてある程度は理解できる。 ・在宅と施設の介護過程について説明はできないが、介護過程の一連の流れについて少しは説明できる。 ・的確な録・記述についてはまだできるとはいえないが、記録の必要性を理解はできる。 ・パソコンを介護業務に活用することはまだできるとはいえないが、5W1H を念頭に入れて記録する必要性はできる。	・利用者と信頼関係を結ぶためのコミュニケーションを図るため、形態別やチームケアに必要なコミュニケーションをとることはだいたいできる。また、言語・準言語・非言語のコミュニケーションの概要についてもだいたい理解できる。 ・在宅と施設の介護過程について少しは説明でき、介護過程の一連の流れについてだいたい説明できる。 ・的確な録・記述について少しはでき、記録の必要性も理解はできる。 ・パソコンを介護業務に活用することが少しはできが、5W1H を念頭に入れて記録することもだいたいできる。	・利用者と信頼関係を結ぶためのコミュニケーションを図るため、形態別やチームケアに必要なコミュニケーションをとることは概ねできる。また、言語・準言語・非言語のコミュニケーションの概要についても概ね理解できる。 ・在宅と施設の介護過程についてだいたい説明でき、介護過程の一連の流れについては概ね説明できる。 ・記録の必要性を理解し、的確な録・記述について概ねできる。 ・パソコンを介護業務に活用し、5W1H を念頭に入れて記録することは概ねできる。	・利用者と信頼関係を結ぶためのコミュニケーションを図るため、形態別やチームケアに必要なコミュニケーションをとることができる。また、言語・準言語・非言語のコミュニケーションの概要についても理解できる。 ・在宅と施設の介護過程について説明し、介護過程の一連の流れについても説明**できる。** ・記録の必要性を理解し、的確な記録・記述ができる。 ・パソコンを介護業務に活用し、5W1H を念頭に入れて記録することができる。
3）利用者の生活状況に応じ、自立に向けた介護支援技術を習得し、実践できる。 ①利用者の多様な生活場面における介護実践の方法を理解し、自助具・福祉用具を活用できる。 ・介護や介護予防に関する技術について、利用者の状況に応じた実践ができる。 ②行った介護について記録や報告の方法を理解し、振り返り、次の介護に活かすことができる。 ③医療的ケアに関する知識と技術を習得し、喀痰吸引等を安全・適切に行うことができる。	・利用者の多様な生活の場における介護実践のあり方については少し理解できる。 ・利用者に適した、自立に向けた自助具・福祉用具について少しは活用できる。 ・介護予防や介護に関する技術について、利用者の状況に応じた実践が少しはできる。 ・行った介護について記録や報告の方法は少しでき、振り返り、次の介護に活かすことについても少しはできる。 ・医療的ケアのねらいや基礎的知識を少しは理解している。	・利用者の多様な生活の場における介護実践のあり方についてはある程度理解できる。 ・利用者に適した、自立に向けた自助具・福祉用具についてある程度活用できる。 ・介護や介護予防に関する技術について、利用者の状況に応じた実践はある程度できる。 ・行った介護について記録や報告がある程度でき、振り返り、次の介護に活かすこともある程度できる。 ・医療的ケアのねらいや基礎的知識を理解し、喀痰吸引等を安全・適切に行うことはある程度習得している。	・利用者の多様な生活の場における介護実践のあり方については概ね理解できる。 ・利用者に適した、自立に向けた自助具・福祉用具について概ね活用できる。 ・介護や介護予防に関する技術について、利用者の状況に応じた実践が概ねできる。 ・行った介護について記録や報告が的確にでき、振り返り、次の介護に活かすことが概ねできる。 ・医療的ケアのねらいや基礎的知識を理解し、喀痰吸引等を安全・適切に行うことが概ねできる。	・利用者の多様な生活の場における介護実践のあり方については理解できる。 ・利用者に適した、自立に向けた自助具・福祉用具について活用できる。 ・介護や介護予防に関する技術について、利用者の状況に応じた実践ができる。 ・行った介護について記録や報告が的確にでき、振り返り、次の介護に活かすことができる。 ・医療的ケアのねらいや基礎的知識を理解し、喀痰吸引等を安全・適切に行うことができる。

【地域生活を支援し、創造する力】 （行動・経験・創造的思考力）	ベンチマーク Level 1	マイルストーン Level 2	マイルストーン Level 3	キャップストーン Level 4
1）生活の要素を科学的に分析・把握することにより生活全般を見渡せる俯瞰能力を身に付けており、経験をもとにした創造的発想ができる、「マルチに学び、マルチに活動する」生活支援のプロフェショナルにふさわしい能力を有している。	・地域の活性化と生活支援活動には、人々の具体的生活実態についてのデータを科学的に分析する必要があることが理解できている。 ・地域の人々のライフスタイルは、非常に多様化しており、その一端のみを垣間見ることでは把握できなく、より広範な生活全般(いのち、くらし、人生)を広い視野から俯瞰的に見渡す能力が必要であることへの認識ができている。 ・現在学んでいる基本的知識と技術を実践的生活支援活動に活かすためには、経験知と経験を下地にした技能が必要であることへの認識を持っている。	・地域の活性化と人々への生活支援活動を行うためのデータの収集方法および科学的に分析する手法などの個々具体的な方法を使用することができる。 ・地域の人々の非常に多様化したライフスタイルを、「食」と「福祉」および「多文化」を基盤とし、さらに「いのち(生命)」と「くらし(営み)」および「人生(生き方)」の支援レベルを複合的に組み合せて俯瞰的に対応できる能力の修得ができつつある。 ・現在、座学(主に講義授業)をもとに学んでいる基礎的知識と技術に加えて、演習や実習などから得る体験的知識と技能などが身に付き始めている。	・地域の活性化と人々への生活支援を科学的見地から行うための広範な分野からのデータの収集と分析活動の具体的計画の立案と企画ができる。 ・地域の人々の非常に多様化したライフスタイルに対応して支援活動を行うために、「食」と「福祉」および「多文化」を生活基盤とし、これに「いのち(生命)」と「くらし(営み)」および「人生(生き方)」の支援レベルを効果的に組み合わせて多面的(マルチ)に考え、学修に臨むことができる。 ・学内、特に学外での地域連携活動を活動フィールドとした演習や実習授業で体験的に修得した実践的知識と技能などが着実に身に付いている。	・地域の活性化と人々への生活支援を科学的見地から行うための広範な分野からのデータの収集と分析から得た結果を精密に考察した上で、さらに自分なりの考えで人々へのより効果的な支援活動に乗り出すための斬新な発想ができる。 ・地域の人々の非常に多様化したライフスタイル志向に柔軟に対応して支援活動を行うために、「食」と「福祉」および「多文化」を生活基盤とし、これに「いのち(生命)」と「くらし(営み)」および「人生(生き方)」の支援レベルを効果的に組み合わせて多面的(マルチ)に実践行動することができる。 ・学内、特に学外フィールドでの地域活性化活動および人々の生活の質(QOL:Quality of Life)の向上を目指して、生活支援の専門家(プロフェッショナル)として、実社会での活躍ができる実践能力を持っている。
2）介護福祉士の義務規定を理解し、権利擁護（アドボガシー）の視点や高い倫理性をもって行動できる。 ①相手の立場に立つことができ、常に利用者本位の視点をもって行動できる。 ②利用者の尊厳を保持し、介護福祉士としての介護観を持つことができる。 ③介護計画に沿った実施、評価ができる。	・介護福祉士の義務規定や倫理綱領について少し理解し、相手の立場に立ち常に利用者本位の視点をもって少しは行動できる。 ・利用者の尊厳を保持し、介護福祉士としての介護観を少しは持つことができる。 ・介護計画に沿った実施、評価が少しはできる。	・介護福祉士の義務規定や倫理綱領について理解し、相手の立場に立ち常に利用者本位の視点をもって行動すること がある程度はできる。 ・利用者の尊厳を保持し、介護福祉士としての介護観を持つことがある程度できる。 ・介護計画に沿った実施、評価がある程度できる。	・介護福祉士の義務規定や倫理綱領について理解し、相手の立場に立ち常に利用者本位の視点をもって行動することが概ねできる。 ・利用者の尊厳を保持し、介護福祉士としての介護観を持つことが概ねできる。 ・介護計画に沿った実施、評価が概ねできる。	・介護福祉士の義務規定や倫理綱領について理解し、相手の立場に立ち常に利用者本位の視点をもって行動できる。 ・利用者の尊厳を保持し、介護福祉士としての介護観を持つことができる。 ・介護計画に沿った実施、評価ができる。
3）他の職種の役割を理解し、チームに参画することができる。 ①チームに参画し、同僚・多職種協働によるチームアプローチを図ることができる。 ②介護福祉士としての意見を述べることができる。 ③リーダーシップをとることができる。	・他職種の役割を理解し、同僚・多職種協働によるチームアプローチを図ることができるよう努めている。 ・チーム内で意見を述べるには不安があるが、介護福祉士としての意見はある。 ・他職種のチーム内では自信がないが、同僚の中では少しは意見を述べることができる。	・他職種の役割を理解し、同僚・多職種協働によるチームアプローチを図ることが少しはできる。 ・介護福祉士としてチーム内で意見を述べることはある程度はできる。 ・他職種のチーム内および、同僚の中である程度は意見を述べることができる。	・他職種の役割を理解し、同僚・多職種協働によるチームアプローチを概ね図ることができる。 ・介護福祉士としての意見を概ね述べることができる。 ・同僚・他職種とのチーム内の中でも概ねリーダーシップをとることができる。	・他職種の役割を理解し、同僚・多職種協働によるチームアプローチを図ることができる。 ・介護福祉士としての意見を堂々と述べることができる。 ・同僚・他職種とのチーム内の中でもリーダーシップをとることができる。

西九州大学短期大学部(学位授与方針)の到達目標に対する学修成果の評価指標　※レベルを飛び越えて評価できません。「 Level 1 」に達していない場合は、「 Level 1未満」とします。
※レベル評価では、該当する全ての内容を達成していなければなりません。

Ⅰ 【主体的･自立的に行動できる確かな人間力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン Level 2	マイルストーン Level 3	キャップストーン Level 4
①自己の心と体の状態を把握し、健康な生活管理を図ることができる。	規則正しい生活習慣を身につけようという考えを少しは持っている。健康な生活管理を少しは意識している。自分のライフスタイルについて少しはイメージできている。	規則正しい生活習慣を身につけようという考えを持っている。自分の健康について必要とする知識を少しは得ようとしている。日常の様々なストレスへの対処は十分でないが、自分のライフスタイルのイメージに合わせて健康な生活管理を意識して、少しは管理できている。	規則正しい生活習慣を身につけようという考えを持っている。自分の健康について必要とする知識を得て生活管理に努めている。自分のライフスタイルを把握しており、健康な生活習慣を意識して、少しは管理できている。日常の様々なストレスを理解しており、その改善に努めている。	自分の心と体の健康状態を理解して、健康維持のために規則正しい生活管理に努めている。将来展望のなかで、自分のライフスタイルを把握しており、生活習慣は継続して管理できている。日常の様々なストレスへの対処が十分できており、継続して良好な健康を維持できている。
②自己の良心と社会の規範やルールに則って行動できる。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っているか、またはその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにしている。明らかな倫理的問題や社会的ルールは浅いが認識している。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っており、かつその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見を把握できる。明らかな倫理的問題や社会的ルールは認識しており、それらの関係性をある程度把握できている。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っており、かつその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見の前提や含意を述べることができ、不十分だがそれに対する自分の答えがある。倫理的問題や社会的ルールの背景を知っており、それらの複雑さや関係性を把握できている。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念とその由来を詳細に自己分析し、議論を深めて明確にしている。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見の前提や含意を述べることができ、それに対する自分の主張を合理的に、十分かつ効果的に答えられる。複雑な倫理的問題や社会的ルールが示されてもこれらを把握でき、それらの複雑さや関係性を理解して行動がとれる。
③主体的に、自らを律して行動するとともに、目標実現のために協調･協働して行動できる。	グループなどの集団的活動において、一員として考えを共有できる。分担する課題解決は締切りまでに完成できる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションあるいは肯定的な態度が示せる。	グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。分担する課題は締切りまでに完成できる。その成果によって、グループの課題解決を前進させることができる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションあるいは肯定的な態度が示せる。	グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。他者の考えに基づいた代替的な解決法や行動計画を提案することができる。分担する課題を締切りまでに完成させることができる。その成果は徹底的で包括的であり、プロジェクトを前進させる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションを行い、肯定的な態度を示している。課題の重要さチームワークへの貢献を表明し、チームを動機づけることができる。	グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。代替的な提案の長所を明確にし、チームの前進を助けることができる。分担する課題を締切りまでに完成させることができる。その成果は徹底的で包括的であり、プロジェクトを前進させる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションを行い、肯定的な態度を示している。課題の重要さチームワークへの貢献を表明し、チームを動機づけ、メンバーに励ましや支援を与えることができる。
④社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。	種々の市民的活動に参加したことは少しはある。自分のなかで諸活動の意味を少しは見つめ直すことができる。社会の一員として、周囲の人との関わりを持つよう心掛けている。	種々の市民的活動に参加したことがある。参加した活動は、教育の一環での参加であり、自分の学修成果となっている。活動への参加は、未だ市民的意識の感覚からではないが、自分のなかで活動の意味を見つめ直すことを考え始めている。	種々の市民的活動に積極的に参加している。参加した活動は、教育の一環での参加であり、自分の学修成果となっている。活動への参加は、市民的意識の感覚からであり、自分のなかで活動の意味を見つめ直し、何を学んだかをはっきり述べることができる。	多様な市民的活動に積極的に、かつ継続的に参加している。参加した活動では、リーダーシップや役割をもって、自立的に参加している。参加した活動からは、自分の学修成果を得ている。活動への参加は、市民的意識の感覚からであり、自分の行動について、目標設定や遂行への省察や分析を行い、何を学んだかをはっきり述べることができる。
⑤生涯にわたって自律･自立して学習できる。	与えられた課題等を仕上げることができる。授業の到達目標を考え、そして知識の追求に興味が持てる。その探求レベルはまだ浅いと言える。	与えられた課題等を仕上げることができる。授業の到達目標の先にある関連する知識を自ら追求することに興味が持てる。その探求では、成果を示すことができる。成果では、部分的だが考察し、授業外の異なる状況に応用することを少なからず述べている。	与えられた課題等に興味を持って探究することができ、仕上げることができる。授業の到達目標の先にある関連知識を自ら探求している。これまでの学びの成果を振り返り、授業外での異なる状況に応用することができ、その成果を示すことができる。	与えられた課題等に強い興味を持って探究することができ、仕上げることができる。授業の到達目標の先にある関連知識を自ら探求し、自己の能力を拡大する機会を授業以外にも設けて追求している。

Ⅱ 【教養ある専門職業人としての基礎力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン Level 2	マイルストーン Level 3	キャップストーン Level 4
①社会生活･職業生活にとって意味ある知識を獲得し、総合的に理解･使用することができる。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識･理解】及び【技能･表現】の学修到達度※が概ね 60%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な能力の必要性を理解し始めている。 ※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識･理解】及び【技能･表現】の学修到達度が概ね 70%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な能力の必要性を理解しており、また将来の職業生活に向けて、専門以外の分野とのつながりについて意識し始めている。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識･理解】及び【技能･表現】の学修到達度が概ね 80%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な知識や技能の学修に努めており、日常生活において時折、総合的に知識を使用することができている。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識･理解】及び【技能･表現】の学修到達度が概ね 90%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、授業以外でも汎用的な知識や技能の獲得に自ら努めており、日常生活の場面で、総合的に活用している。
②専攻する特定の学問分野における知識を体系的に獲得することができる。	修了学期末において、専門的能力要素【知識･理解】及び【技能･表現】の学修到達度※が概ね 60%以上獲得できている。専門分野の個々の学修は最低限達成している。 ※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期末において、専門的能力要素【知識･理解】及び【技能･表現】の学修到達度が概ね 70%以上獲得できている。専門分野の個々の学修はある程度達成しており、それらのつながりについて体系的に理解し始めている。	修了学期末において、専門的能力要素【知識･理解】及び【技能･表現】の学修到達度が概ね 80%以上獲得できている。専門分野の個々の学修を達成しており、それらのつながりについて体系的に理解している。専門とする学問分野に対し、自分の見方を少しは考えることができる。	修了学期末において、専門的能力要素【知識･理解】及び【技能･表現】の学修到達度が概ね 90%以上獲得できている。専門分野の個々の学修を達成しており、それらのつながりについて体系的に獲得する必要性を理解している。専門とする学問分野に対し、自分の見方を明確にして、創造的に活用できている。
③上記知識体系を外部的視点で捉え返すことができるとともに、自己と関連付け洗練していくことができる。	自分が学んできた上記①②の知識において、生活経験と、自分の興味とのつながりを見出していて、学問的な関係性を把握している。修得した知識･技能を新しい状況で用いろうと試みている。	自分が学んできた上記①②の知識において、生活経験と学問的な知識との類類似性や違いを比較し、自分とは異なる見方や考え方も認めている。修得した知識･技能を、新しい状況のなかで課題や問題点の発見や理解に用いることができる。	修学期間中に学んできた知識の枠組みを明確にするために、様々な状況のなかから生活経験の例を考えて発展的に考えることができる。修得した知識･技能を、新しい状況のなかで課題や問題点の発見や理解に用い、適用して応用することができる。	学問分野での理解を深め、自分の見方を広めるために、授業外の諸経験の間のつながりを意義深く統合できる。修得した知識･技能を、難しい問題の解決や、複雑な議題の探索のために、新しい状況でオリジナルな方法で適用して応用することができる。

Ⅲ 【社会人としての汎用的能力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン Level 2	マイルストーン Level 3	キャップストーン Level 4
①確かな日本語に加え、一つ以上の外国語を用いて、読み、書き、話すことができる。	修了学期において、汎用的能力要素【技能･表現】の学修到達度※を概ね 60%以上で獲得している。テキストの情報を適切に捉え、言い換えや要約することができる。文章作成の課題に対し、用語法を誤るが、ある最低限は注意をはらい、基本的構成や提示において一貫した体系を使っている。会話において、中心的なメッセージは何とか伝えることができる。構成がなってないが、プレゼンテーションはできる。話術は相手の理解の妨げとなっていると考えられる。 ※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期において、汎用的能力要素【技能･表現】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。テキストの情報を評価し、文脈や目的について、基礎的な推論ができる。与えられた課題を自覚し、特定の学問や文章作成課題に求められるルールに、幾つかの誤りがあるが従うことができる。会話において、中心的なメッセージは基本的に伝えることができる。プレゼンテーションには構造的な構成が少しはできている。話術においては、まだ自信をもって話すことができていない。	修了学期において、汎用的能力要素【技能･表現】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。テキストの情報に対して、より複雑な推論を行うために、一般的及び特定の知識を使用している。与えられた課題に明確に焦点をあて、特定の学問や文章作成課題に求められる重要なルールを、一貫性をもって使用することができる。文章の誤りは滅多にない。話において中心的メッセージは明確であり、プレゼンテーションには一貫した構造的な構成ができる。話術においては、相手が興味深く聞いてくれる。	修了学期末において、汎用的能力要素【技能･表現】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。テキストの情報を超える問題に対して、テキストが含意するものを認識している。与えられた課題に対応し、あらゆる要素に焦点をあて、特定の学問や文章作成課題に求められる広範なルールに細かな注意を向け遂行することができる。文章の誤りは殆どない。話において中心的メッセージは説得力をもっている。話術は洗練しており、プレゼンテーションは説得的である。相手の反応から自信を持って対応することができる。
②自然や社会的事象について、図表等のシンボルを用いて分析、理解、表現することができる。	修了学期において、汎用･基礎的能力要素【技能･表現】の学修到達度※を概ね 60%以上で獲得している。自然や社会的事象について、科学･数学的形式の情報の解釈･結論を少しは説明ができる。結論にまで結びつかないことがあるが、データの量的分析を初歩的な判断根拠として使用できる。単純に情報の変換は完遂することができる。 ※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期において、汎用･基礎的能力要素【技能･表現】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。自然や社会的事象について、小さなミスはあるが、科学･数学的形式の情報をある程度正確に説明できる。データの量的分析を、直感やひらめきを伴わない判断根拠として使用でき、十分でないが結論を導くことができる。情報の変換は完遂することができるが、その結果である科学･数学的表現は部分的に適切あるいは正確である。	修了学期において、汎用･基礎的能力要素【技能･表現】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。自然や社会的事象について、科学･数学的形式の情報を正確に説明することができる。データの量的分析を、確かな判断根拠として使用できており、結論は筋が通り適切である。適切な情報を適切な科学･数学的表現に変換することができる。	修了学期において、汎用･基礎的能力要素【技能･表現】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。自然や社会的事象について、科学･数学的形式の情報を正確に説明でき、これを土台とした適切な推論を立てることができる。データの量的分析を、思慮深く判断し使用できており、結論は入念で洞察に富んでいる。適切な情報をさらに深い理解に寄与するような方法で、洞察に富んだ科学･数学的表現に巧みに変換することができる。
③ICT(情報通信技術)を用いて、多様な情報を収集･分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。	基本的な ICT 活用ができる。手当たり次第に情報にアクセスし、本質に欠けた情報検索をしている。情報の使用方略(引用･出典、パラフレーズ･要約･引用の選択、文脈との照合、常識･帰属アイデアの区別)の 1 つは正確に使用できる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。	情報の使用に応じてある程度の ICT 活用ができる。単純な検索方略を用いて情報にアクセスし、限られたソースから情報を検索することができる。情報の使用方略(引用･出典、パラフレーズ･要約･引用の選択、文脈との照合、常識･帰属アイデアの区別)の 2 つは正確に使用できる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。	情報の使用に応じて十分 ICT 活用ができる。多様な検索方略で、関連する情報ソースから情報を検索することができる。検索を絞り込むことができる。情報の使用方略(引用･出典、パラフレーズ･要約･引用の選択、文脈との照合、常識･帰属アイデアの区別)の 3 つは正確に使用することができる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。	情報の使用に応じて効果的に ICT 活用ができる。十分検討した検索方略で、適切な情報ソースを効果的に使用し情報にアクセスすることができる。情報の使用方略(引用･出典、パラフレーズ･要約･引用の選択、文脈との照合、常識･帰属アイデアの区別)の全てを正確に使用することができる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。
④情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。	自分の見解を示す際に、現在の仮定に気づき、文脈の幾つかを同定し始めている。(選択された情報)ソースからの情報を、意図する目的まで到達できてないが、断片的に使用できる。	自分の見解を示す際に、仮定の幾つかを批判的に捉えることができ、重要な幾つかの関連性を同定することができる。自他の仮定･関連性に意識を向けている。ソースからの情報を発信し、組織化することができる。情報は統合されていないが、意図された目的はある程度は達成できている。	自分の見解を示す際に、自他の仮定や幾つかの関連性を同定することができる。ソースからの情報を発信し、組織化し、統合できており、意図された目的は達成できている。	自分の見解を示す際に、自他の仮定を体系的･方法論的に徹底的に分析し、関連性を慎重に評価することができる。ソースからの情報を発信し、組織化し統合できており、意図された目的は完全に達成できている。
⑤問題を発見し、その解決に必要な情報を収集･分析･整理し、その問題に的確に対応できる。	自ら問題を発見するには至らないが、指示に従って問題に対応することができる。	指示に従って問題に対応することができる。自ら問題を発見することができる。リサーチクエスチョンやテーマの範囲を不完全に限定して、問題を発見し、鍵概念を決定できる。(選択された情報)ソースを概念と部分的に関連付けるか、リサーチクエンスチョンに答えるかすることができる。	指示に従って、能動的に問題に対応することができる。自ら問題を発見することができる。リサーチクエスチョンやテーマの範囲を十分に限定しており、問題を発見し、鍵概念を決定できる。ソースを概念と関連付けるか、リサーチクエンスチョンに答えるかすることができる。	指示に従って、問題に対応することができる。リサーチクエスチョンやテーマの範囲を効果的に限定しており、鍵概念は決定できる。ソースを概念と直接に関連付けるか、リサーチクエンスチョンに答えるかすることができる。授業外の他の事柄に対して、自分に関係する問題を発見し、創造的に対応することができる。

Ⅳ 【地域生活を支援し、創造する力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン Level 2	マイルストーン Level 3	キャップストーン Level 4
①上記Ⅰ～Ⅲの態度･志向性･知識･技能の知識を総合的に活用し、個人の職業生活及び社会生活のクオリティ向上を図ることができる。	自分のパフォーマンスを、成功か失敗かという一般的な記述で認識している。生活経験と、自分の興味との類似性や関連性が認められるアカデミックな文章やアイデアとのつながりを同定することができる。	自分の強みと課題を明確に表現し、別の文脈での有効性を高めている。生活経験とアカデミックな知識を、差異と類似性を判断するために比較し、自分とは異なる見方も認めることができる。	学修よる自分の変化を正しく評価しており、複雑な文脈要因を認識している。学問分野の枠組みを明確にするために、様々な文脈から生活経験の例を効果的に選び、発展させている実例を示すことができる。	複雑な社会の下に置かれる将来の自分を現実的に思い描くことができる。学問分野での理解を深め、そして自分の見方を広めるために、生活経験や授業外経験などの諸経験とのつながりを意義深く統合していることが、実例で示すことができる。
②地域での実践活動をもとに、上記Ⅰ～Ⅲの知識･技能･態度･志向性を総合的に活用し、自発的に地域課題を解決することができる。	ボランティアなどの市民的活動を体験しており、自分の経験によって得た事柄について十分ではないが示すことができる。グローバルな関心事に対し、自分の内面で少しは考えている。	市民(プレ社会人)としてはっきりとした態度をもって参加･活動できる。コミュニケーション力(プレゼンテーション力、傾聴力、対話力、話術等)の一つ以上の要素をきちんと備えている。グローバルな問題を構成している複雑な関係を検討し、社会的･文化的な影響への考えを少しは持っている。	市民的な活動において、態度を明確にし、目標をもって自立的に経験でき、その成果を示すことができる。相手との円滑なコミュニケーションがとれる。学問的な概念と枠組みを用いて情報を収集し、グローバルな問題に対する対応への探求を行うなかで、地域課題の解決のアプローチとの比較検討を行っており、課題に対する自分の判断を明確にしている。	市民的な活動において、態度を明確にし、目標をもって自立的に経験できており、その成果を示すことができる。変容する異なる状況においても円滑なコミュニケーションがとれる。学問的な概念と枠組みを用いて情報を収集し、グローバルな問題に対する対応への探求を行うなかで、地域課題の解決のアプローチとの比較検討を行っており、課題に対する自分の判断を明確にしている。
③上記Ⅰ～Ⅲの知識･技能･態度･志向性の総合的知識を統合し、個人の人間性の高揚を高めていくことができる	個々の学びについて断片的、あるいは浅いレベルで振り返っている。	これまでに学んできたことの意味を多少は明確にし、以前(入学前)よりもある程度の視野を広げている。これまでの学びをある程度の深さで再検討している。	これまで学んできたことの意味を十分に明確にしており、以前よりも広い視野をもって深く振り返っている。自己の人間性の向上を図ることについて考えている。	これまでの学びを明確に参照し、異なる状況に革新的に応用することができる。これまでの学びを深く再検討することで、視野を変化させ、長期間にわたって自己成長･成熟を拡張するための基盤をもっている。